

第36回（令和3年度第1回）大阪市民活動推進審議会議事録

日 時 令和3年10月25日（月曜日）午前10時～正午

場 所 大阪市役所 4階 市民局第1～第3会議室

出席者 《審議会委員》

桜井会長、藤本会長代理、石地委員、上村委員、梅田委員、木下委員、
塩山委員、巽委員、松井委員、三田村委員（部会長）

※桜井会長、石地委員、梅田委員はオンライン出席

《大阪市》

高野市民局区政支援室長、堀田区政支援室区政支援担当部長、玉岡区政支援室地域力創出担当課長、松原区政支援室地域連携担当課長、松穂区政支援室地域力創出担当課長代理、川上区政支援室地域連携担当課長代理

議 題

- (1) 自治会・町内会の加入促進について
- (2) その他

議 事

○事務局（松穂）

定刻となりましたので、ただいまより第36回、令和3年度第1回大阪市民活動推進審議会を開催させていただきます。

私は議事に入りますまでの間、進行を務めさせていただきます区政支援室地域力創出担当課長代理の松穂と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日はお忙しいなか、また雨でお足元の悪いなか、審議会開催のためにお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本日は、本市「審議会等の設置及び運営に関する指針」に基づき、公開にて行わせていただきます。

なお、傍聴出席の希望は、今回はいらっしゃいません。

本日の会議は、記録のために録音させていただいております。後日、議事録という形で公開してまいりますので、ご了承のほどよろしくお願ひをいたします。

それでは、お手元に配付しております資料を確認させていただきます。着席にて失礼いたします。

資料は4点ございます。お手元の資料のご確認をお願いいたします。

まず、1枚ものの「次第」でございます。

そして、資料1といたしまして、「委員名簿」でございます。

資料2といたしまして、4枚もの8ページの、「自治会・町内会の加入促進について」というホッチキス止めした資料、そして、最後にイメージ「自治会・町内会との

関わり方」というマトリックス図ですね、参考資料という形でご用意いたしております。

全部で4点でございますけれども、過不足等はございませんでしょうか。

次に、本日ご参加いただいております委員の皆様をご紹介します。

本日は、オンライン参加いただいております桜井会長でございます。

○桜井会長

皆さんどうぞよろしくお願いたします。

○事務局（松穂）

続きまして、会場に来ていただいております藤本会長代理でございます。

○藤本会長代理

藤本です。よろしくお願いたします。

○事務局（松穂）

次に会場にお集まりの委員の皆様を五十音順でご紹介させていただきます。

上村委員でございます。

○上村委員

上村でございます。よろしくお願いたします。

○事務局（松穂）

木下委員でございます。

○木下委員

木下です。よろしくお願いたします。

○事務局（松穂）

塩山委員でございます。

○塩山委員

塩山です。よろしくお願いたします。

○事務局（松穂）

巽委員でございます。

○巽委員

巽でございます。よろしくお願いたします。

○事務局（松穂）

松井委員でございます。

○松井委員

おはようございます。松井でございます。よろしくお願いたします。

○事務局（松穂）

三田村委員でございます。

○三田村委員

三田村です。よろしくお願いします。

○事務局（松穂）

そして、オンラインでご参加いただいております委員をご紹介します。石地委員でございます。

○石地委員

石地です。よろしくお願いします。

○事務局（松穂）

ちょうど今、梅田委員がお越しいただいたみたいです。梅田委員、音声聞こえておりますでしょうか。

○梅田委員

はい。大丈夫です。

○事務局（松穂）

よろしくお願いいたします。

○梅田委員

はい。

○事務局（松穂）

ありがとうございます。では、これで委員の皆さん全員おそろいという形になりました。次に、大阪市側の出席者をご紹介します。

高野区政支援室長でございます。

○高野区政支援室長

高野でございます。どうぞよろしくお願いします。

○事務局（松穂）

堀田区政支援担当部長でございます。

○堀田区政支援担当部長

堀田でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（松穂）

松原地域連携担当課長でございます。

○松原地域連携担当課長

松原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（松穂）

玉岡地域力創出担当課長でございます。

○玉岡地域力創出担当課長

玉岡でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（松穂）

私、課長代理の松穂でございます。お願いいたします。

そして、係長の高でございます。

○事務局（高）

高でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（松穂）

同じく担当の和田でございます。

○事務局（和田）

和田でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（松穂）

別公務で席を外しておりますが、川上地域連携担当課長代理も出席予定になっております。よろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして区政支援室長の高野よりごあいさつ申し上げます。

○高野区政支援室長

おはようございます。改めまして、第36回大阪市市民活動推進審議会を開催するにあたり一言ごあいさつ申し上げます。各位の皆様におかれましては、平素より大阪市政にご理解・ご協力を賜っておりますこと、また、本日はご多忙のところ、また、足元のお悪いなか、本審議会にお集まりいただき、厚くお礼申し上げます。

大阪市では、より豊かでより活力にあふれた地域社会づくり、地域コミュニティの形成に向けて、本審議会からいただいたご提言「みんなでつくる豊かな地域社会に向けて」に基づく取組を進めているところでございます。

しかし、この地域コミュニティの維持、活性化に大きな役割を果たしていただいております自治会・町内会の加入率の低下が近年、全国的にも多くの都市で問題となっており、それは大阪市においても例外ではありません。今般のコロナ禍において、多くの人が「孤立」「孤独」を感じた際、改めて誰かとつながっていることの大切さを実感したと言われております。

自治会・町内会は、つながりづくりの基盤となる住民に最も身近な地縁型の組織であり、SDGsの理念である「誰一人取り残されない」社会の実現に大きく貢献いただけるものであります。

また、盆踊り、地蔵盆、だんじりなど地域の伝統文化の継承においても重要な役割を担われています。

行政といたしましても、加入率の低下により、これらの役割が十分発揮できなくなることを危惧するところです。そこで、今回は「自治会・町内会の加入率向上」にテーマを絞ってのご議論をお願いする次第です。

委員の皆様方には、貴重なご経験に基づく幅広い視点での議論をお願い申し上げ、

簡単ではございますが、審議会開催にあたりましてのごあいさつといたします。

どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（松穂）

それでは、ここから議題に入りたいと思います。ここからの進行は、桜井会長にお願いしたいと思います。

それでは桜井会長、よろしくお願ひします。

○桜井会長

はい。桜井です。オンラインから失礼いたします。大学の予定の関係で申し訳ありませんけれども、今日、こちらから参加させていただいております。

私もオンライン授業をしております。今は、無事、大学で授業ができるようになったんですけども、対面かオンラインか、どっちかだけだと割とオンラインも慣れたので、やりやすいんですけども、両方合わせての今回の会議のようなハイブリッドというのが、非常にこう、負担がかかって大変なんですね。

今回、事務局には、多大なご負担・ご協力をいただいで感謝申しあげたいと思います。そういうことで円滑な議事進行に皆様ご協力いただければ幸いです。

それでは、事務局より議案の説明をお願いいたします。

○事務局（松穂）

では、改めましてよろしくお願ひいたします。お手元の次第をご覧くださいませ。

本日の議題なんですけれども、「自治会・町内会の加入促進について」をご用意させていただいておりますが、その前に、8月の24日に開催いたしました「部会」の議事につきまして、本日の議題とも関連するところがございますので、簡単にご報告させていただきたいと思ひます。

この「部会」なんですけど、本年3月に、「次期提言の検討に向けた課題の整理にかかる議案の整理、調整及び市民活動への助言を行う。」ことを目的に設置いたしました。

当日は、三田村部会長を筆頭に、委員の皆様によりまして、未加入の住民へどう訴えていくかといった加入促進の検討と合わせまして、活動したいという層へのアプローチであったり、すでに活動している団体へのバックアップを大きな流れで捉えていただいでのご議論となりました。

区行政と地域とが、しっかり連携して把握しきれていない課題を発見、明確化していくことが大切であるということ、地縁組織とコミュニティ全体とに世代間のギャップが生じていることへの対応が必要であるということ、また、防災力を高めるための取組の重要性であったり、若い世代には活動を通して職業感の醸成につなげてもらう

ことが大切であるというところまで、広い視点でのお話がございました。

さらに、当局の事業でございます「連携推進事業」と「地域公共人材活用推進事業」につきましても、事業ごとに単発となつてはならず、事業間連携を大切に取り組むべきとのお助言もいただいたところでございます。

そして、本日の議題とも直結するんですけども、加入促進に向けましても、自治会・町内会のメリットがうまく伝わっていないということと、組織が何をやっているかよくわからないことに加えて、加入の動機付けがないといったお話、自治会・町内会未加入者には、自治会・町内会にお世話になっているという感覚がないので、楽しいことをきっかけにするなどの理由付けが必要であること、自治会としてのまとまりが生まれているところでは防災訓練やイベントに参加していないと取り残され感が生まれる、とのお意見、参加したくなるような、「わかりやすいもの」や「トピック」があつて、自治会・町内会に参加している人は優先的に参加できるとなると、会費自体はそんなに高いものではないので、絶対に入るはずだろうから参加していないと損をするようなことを見せる努力が必要というご意見。さらに、参加したくなるようなものは、地域がイチから考えなくても、ある程度モデル化したものが使えるように、行政としてお膳立ても必要であるというご意見も頂戴したところでございます。

これらのご意見もお含みおきいただきながら、この後の本日の議題について、内容をご確認いただければと思います。

なお、部会メンバーと会長以外の皆様には、本日の資料と合わせまして、議事録と当日の資料についてお届けさせていただいておりますので、詳細はそちらをご確認いただきますようお願いをいたします。

現在、この部会でのご意見なども踏まえまして、次年度に向けて事業の組立て直しであったり、事業化に向けた予算要求などにも取り組んでいるところでございますが、本件につきまして、三田村部会長の方から補足等ございましたらよろしく願いをいたします。

○三田村委員

はい。どうもありがとうございます。8月に、部会委員の梅田委員、塩山委員、巽委員、私の4名と事務局とで協議をさせていただきました。先ほどご紹介いただいたんですが、自治会は地縁型で、しかも中核になっているのは、古くから居住される方々が中心で組織立てが従来からあり、かなり高齢化が進んでいまして、若年層が少なく、どんどん自治会を支える人材が少なくなっているという状況が生まれていると。しかも、若い世代や周辺の集合住宅は地縁ではないし、テナポラリーに、例えば働くために、その地区には引っ越してきたという形で、最後までそこで暮らしていくかという、そういうわけでもないという方がやはり多い。このため世代間のギャップ、意

識のギャップがあるというような状況です。ただ、地域のなかには、やはり多様な問題意識持たれているグループは存在していて、若い世代のなかにも、例えば子育てママさんグループなんていうのがあります。そういうグループは、SNSをうまく使いながら、地縁ではなく、時間・場所を問わず、井戸端会議ができる環境でつながりを持たれている。多様な問題意識を持たれ、緩やかに協力関係を結ばれているようなグループをうまく地縁型の自治会組織と連携させる仕組みがやはり大事じゃないかというように思います。それからもう一つは、若い世代が地域で活動することで、その地域に根差した職業観を見い出せるような取組や支援体制が大事なんじゃないかということが出ました。これまではたぶん、かなりボランティアで進めていく地縁で、どうしても親から引き継いで、使命感だけでかなりやってきた経緯もあると思う。もう現実それができなくなってる状態なので、やはりボランティアでない体制や運営の仕組みも必要になってくるだろうと思います。そのためにはやはり行政側の支援施策を単発の形ではなくて、それぞれ別の目的かもしれないけれども、有機的に結びつけて、効率よく効果的にそれらが地域に対してうまく働きかけができるような仕組み必要なんじゃないかというお話をさせていただきました。あと、やはりどうしても若い世代、あるいは自治会に入らない方の意識っていうか、そういうところをやはりしっかりと見据えながら、今後の自治会の運営や仕組みをしっかりとしていけないといけない、というふうな話をいたしました。以上です。

○事務局（松穂）

ありがとうございます。

それでは引き続き、議題1「自治会・町内会の加入促進について」ご説明を申し上げます。

資料2の1ページをご覧ください。

先ほど室長からのごあいさつにありました本日の会議案件の趣旨説明について、改めてこの1ページ目に文字という形で落とし込ませていただいております。

2ページ目では、「加入率低下の要因（仮説）」として考えられることを大きく二つの視点に分けて考えてみました。

まず、「(1) 意識的な要因」でございます。

自治会・町内会関係者や本審議会を含みます有識者との意見交換などから推察されることをまとめています。まず、＜存在の認知＞では、「自治会・町内会の活動内容が認知されていない。」「身近な人や周りで自治会・町内会に入っている人がいない。」そして、＜取組内容＞といたしまして「組織が古いという印象を拭えない。」などのご意見、そして、＜負担感＞といたしまして「会費や寄付などの金銭面の負担」など、そして＜意識の変化＞といたしまして、「かつての加入して当然という意

識から、加入にメリットを求める傾向が出てきている。」などですね。そして、また<その他>といたしまして「入会せずとも不便を感じない。」などの形で大きく5項目に分けて、再分類をしてお示しをさせていただいたところでございます。

次に、(2)の「社会・環境的な要因」といたしまして、この資料の4ページ以降には参考資料としてバックデータの数値をつけさせていただいております。

この数値から<転入が多い>、そして、<マンションなどの共同住宅への居住世帯が増加>、3ページ目の<地域活動に参加するきっかけとなる『子ども』の減少>、そして、<地域と関わる機会の減少>を読み取ることができましたので、ここに言葉として整理をさせていただきました。

その次の2といたしまして、先ほど報告させていただきました審議会の8月部会でのご意見を端的にまとめさせていただいております。

そのうえで、3といたしまして、「効果的な加入促進の支援に向けた今後の方向性」という形で3方向の取組をまとめさせていただきました。

まず、(1)「加入促進を阻害する要因の分析」です。本日の分析は全市的な括り、考え方を整理させていただいておりますけれども、区域、さらには校区単位で状況が大きく異なると思っておりますので、分析を進めていただくことが大切というふうに考えるところです。

2番目の「広報活動の強化」について、こちらは加入率向上に向けて何ができるのかということは地域でご検討いただきたいと思うところですが、行政としてできることを考えた場合、やはり広報活動が主軸となるだろうというふうに考えるところでございます。

しっかり自治会・町内会の活動意義を理解いただき、加入しようと思っただけのような広報活動の強化に取り組んでまいりたいと思っております。

3点目の「自治会・町内会による加入勧奨の支援」についてですが、マンション入居者に対する勧奨機会の増加に向けた取組を強化いたしますとともに、区を通じて、地域が行われている加入率の向上につながるような好事例情報などを周知いたしまして、区間共有するなどにより、自治会・町内会による加入勧奨を支援したいと考えています。

資料2の説明は以上ですが、実は部会の方では、「地域活動にいかに参加いただくか。」についてもご議論をいただいたのですが、本日の審議会の限られた時間内で集中したご議論をお願いいたしたく、議論のイメージがわかりやすくするように、「参考資料」といたしまして、「【イメージ】自治会・町内会との関わり方」というマトリックス図を作成いたしております。

「理解度」を縦軸に、そして「地域活動の意欲」を横軸にいたしまして、それぞれ高低により属性を整理させていただいております。

端的に申しますと、「この『左上』にカテゴリズされております層からいかに『左の下』に1人でも多く移っていただくか。」ということについて、ご議論をお願いしたいと思っております。

資料の説明につきましては、以上でございます。

桜井会長、ご議論のほどどうぞよろしくお願いいたします。

○桜井会長

はい。ご説明ありがとうございました。

今、ご説明いただいた案件、とりわけですね、地域組織にどのように若い方や新しい方が加入していただけるか。あるいは、加入率が低いというところでその加入率全体を上げるにはどうしたらよいかというところを本日は中心に議論できればというふうに考えております。

とはいえですね、ご説明いただいたようにですね、おそらく様々な観点から地域組織の課題はある、そして、いろいろつながってあるのかなというふうにも思いますので、自由にご発言いただくなかで、特にまとめるようなことはせずに、課題に応じて、どのような意見が出て、いろいろと考えられるかというところが表現できればよいかというふうに思っております。

というところで、いかがなものでしょうか。

私の方からちょっとどなたか手がけていただいても、見えにくいところもありますので、事務局が「どなたかご発言を希望されている」とか言っていただくとか、あるいはもう自らですね、ご発言始めていただいてもいいかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

○上村委員

上村です。

○桜井会長

お願いいたします。

○上村委員

ピント外れなところがあるかも知れませんが、よろしくお願いします。

この議題いただいてから、大阪市内、市外に住んでいる人にもメール等で、感触を聞いておまして、ここに記載されているのと同じことを繰り返すようなことになるかも知れませんが、若いお母さん2人に聞いたんですが、1人の方は引っ越して来て、すぐ町会の方から説明を受けた。「入らないかな。」と思ってすぐ入り

ましたと。もう1人の方、マンションですが、入ってきたけれども何の声もかからない。で、ずっとかからなくて、そのまま今まできてますというお話です。それから、60代以上の方ですけれども、1人は集合の建売住宅に入ってこられた。もう10年以上もおられるんですけども。入るときにそこの住宅会社の人から、「町会に入ることが条件になってますよ。」とか言われたらしいですね、皆さんで、町会に入っておられます。そして、もう一つは高層マンションに入った方ですが、入ってから、「このマンションで町会に入るかどうか」というので検討されたらしいんです。そうすると、「入るメリットがない」という結論になりまして、そのマンションはその結果、皆さん入っておられないというのがあります。入ってない方も「別に生活に困ることがないんで、入る必要を感じませんよ。」というお話でした。あとは、これ市外の方ですが、町会に入ってますね、役員を任されたらしいんですね。そうすると、いっぱい仕事を言われて断ると何やかや言われるんで、ちょっともう精神的にまいって、結局「もう町会やめた。」なんていう、そういうケースもありました。あと、町会長の立場からすると転入された方に対して区役所の方で町会の案内チラシを配っておられるんですね、ほかの資料と一緒に。ただ、町会長の方にはそういう情報って入ってこないんで、誰がいつ入れたかわからない。しばらくしてから勧誘に行くんですけども、もうその方も生活が根付いて、「別に入る必要もないですね。」って感じで加入されないというようなことになってるんです。できるかどうか、わかりませんが、区役所で、最初、転入届を受理されたときに、チラシを配るだけじゃなくて、何かその、「町会に入った方がいい。」とかですね、例えば、「この地域にはこういう町会長いてるんで、1回顔出されたらどうですか」ぐらいのことをもし言えるようなことがあれば進むのかなあという感じがしました。

それから、これちょっと町会から少し離れるかもわかりませんが、町会の活動ってというのは、「入って何かをしてもらう。」というんじゃないかって、「自分が地域のために何をできるか。」というような気持ちにならないと、なかなか入らない、そういう組織でないと難しいのかなという気がしています。自分の住んでる地域とか、あるいは区ですね、に対してその愛着を持つとか、あるいは誇りを持つとか、何かそういった感じのことが醸成されないと、なかなか町会も難しいのかなという感じがします。

実は、ある小学校の教頭先生のお話ですが、子どもたちに言った言葉で、「学校の近くにどんな企業や施設があって、どんな人が働いているのか、同じまちに住む仲間や生活をされる人たちのことはわかるようになると、自分のまちへの愛着も深まります。」というお話がありまして、私は企業というのを、区民や市民と同じように考えていくことも大事かなと思います。例えば、極端な場合、地元の企業に勤めると、遠方に行くと、通勤時間だけでも大変と思うし、なかなか地域の活動もできないですけ

ども、もし地元の企業であれば、例えば町会の活動にも参加しやすい、あるいは祭りとかそういった行事にも参加しやすいですし、それから災害のときもすぐ対応しやすいということで、職住一体のようなものを進めていくということも一つの方法かなというように考えてます。

私は西成区に住んでいますが、「西成しごと博物館」という取組で、区民センターを使って年に1日だけですけれども、いろんな企業がボランティアで参加され、小学校の子どもさんにもものづくりの体験をしてもらうんですね。これ去年から始まったんですが、けっこう人気があります。今年は参加企業も増えて、さらにバージョンアップしてるんですが、何かこういったことも一つの例になるのかなというふうに思います。

それも含めてですね、地域のすばらしさというか、以前に、滋賀県が「自分の県が日本一こんなことがあります。」ということをしてPRされたことがあったんですけども、そういった地域のすばらしさっていうことを知ってもらって、地域に誇りを持つとかですね、そうした意識を持ってもらうとよいのかなと思ってます。

例えば、区役所から区のすばらしい点、これも施設だけじゃなくて、こんなすばらしい人がいますというのもあるかもわかりませんし、そういったことをPRしてもらって、「そこまでの地域があるのであれば、自分たちももっとよくせないかな。」という、そういった意識を持ってもらうというようなことも考えられるかなあと。

それからこれと別に「日本全体でこれから外国人に入ってもらいましょう。」ということで、たくさん来られてます。今ちょっとコロナの関係で、中断してるというか停滞してますけれども、これがある程度収まってくれば、また入ってこられると思います。

ところが、入って来られて、手続きで区役所へ行かれてもおそらく、町会の外国語版の資料というのはないんですね。たぶん町会長が説明に行かれても、言葉もなかなか通用しないっていうので、これからそのところをどうしていくのかというのが、課題になってくるように思います。すみません、最初の導入的な話になりました。

○松井委員

すみません。よろしいですか。私は、港区に在住しております。港区はですね、加入率が10%ぐらい下がってますけど、まあまあ、組織率も良い方かなというふうには思ってます。

私、NPOの会長させていただいておりますが、港区の場合は、会長会というのは月に1回あります。会長会は地活協の会長、社協の会長、それから地振の会長、この3会長さんがいっしょに集まる。私ども11地域ありますので、兼ねてらっしゃる方もいらっしゃる。だいたい20名ぐらい集まって、行政からの報告事項とかいうのを聞か

せていただいています。それで報告事項と若干協議事項ありますけども、それが終わった後、最後にですね、地域振興会が入る会議になるとですね、区長さんとか、関係の担当課長も全部退出されます。私も地活協の会長やから地振の会合は抜けます。そうすると実際、その地振の課題とか、そういういろんなことについてもですね、情報共有がですね、実際できないんですよ。私は地域に帰ったら、地振の会長から、今日の会長会、地活協の会合、地振の会合ではこういう話をしましたとかですね、報告事項がありましたとか聞けますけども、行政の港区役所さんは、地振のそういう情報共有をどういう形にしておられるのかがちょっと僕はわかりません。だから、全体会議のときに一応「町会に入ってください」というようなお話をされますけども、実際、もう少し、何と言うんですかなあ、情報共有の面では中途半端な部分がちょっと見えている感じが個人的にしています。

それから港区で言いますと、港区は11校下ありまして、そのうち4校下は、町会費を取ってない地域なんです。町会費を取ってない地域は、町会活動がかなり危機的なんです。それは何でか。まず班長さんのなり手がありません。班長さんの仕事いうたら、町会費を取ってないですから、日赤募金、善意募金、赤い羽根募金、年末募金、その募金だけの活動で班長さん動かされるわけですよ。ほんで、気持ちよく出していただければいいけれども、ひとこと、ふたこと言いほることもあるでしょう。そんなので、なかなか班長さんのなり手がありません。班長さんのなり手がありませんということは町会長さんのなり手がありません。だから、そういう面で、僕は長の方には「町会費は取らんとあきませんよ。」と必ず言います。町会費を取らないと町会活動がまずできませんやんか。私どもは北町会という町会ですけども、子どもをターゲットとか、あるいは、ソフトバレー大会とか、大したあれじゃないですけど、地域での町会活動があるんですよ、「それに使わせていただきますよ。」ということで、皆さんご理解いただいています。それから、やはり「町会費を負担」ということ、書いておられますけど、逆に負担になったとしても、町会費を取らないと、実質、中身が見えないということがあるんで、私は町会費を取った方が運営するうえにおいては大事だなと思います。

例えば、私の隣の地域なんかは、そこのマンションのそこは、町会入っていないんですね。そうすると、そこの町会に入っていないマンションの子はですね、地域の祭りに参加できないんです。だから、町会に入っている子どもは、祭りの、例えば子ども太鼓とか、笛とか、獅子とか、いろいろありますよね。それ全部、役割あるんですね。僕、聞いたんですよ。「何で町会入っていない子どもは祭りに参加できへんのか。」「松井さん、親の顔がわからへんのに、そこの子どもを引率して、神社まで連れてって、そこで練習して、また送迎せんといけませんやんか。親がわからへんかったら、もし事故が起こったときに怖い。町会が入っていただいたら、顔が見えますから。ここは

Aさんの子だ。あるいは誰かの孫だとわかりますやんか。」だからそのために、ブロックのためにしているのと、それから、まかないをしますね、当然、祭りなんか。祭りのまかないのお金は、やはり町会に入っておられる方が皆さんそれぞれ協賛して、お金を出していただいておりますね。だからそういう面で、「うちは町会に入っていない子どもさんは参加できません。」とはっきりおっしゃっておられました。だから、個別でどういう形で今、対応されているかわかりませんが、そういうことで非常にはっきりしている地域もありますね。だから、まあ、私は町会活動、地域活動も非常に、特に若年層、若い層の方は難しいですけど、いずれ例えば幼稚園に行かれたり、小学校に行かれたり、必ず地域との関わりが出てきますから。例えば、子どものドッチボールとか、バレーとか、いろんな形で絡みが出てきますので、親同士の横の関係が繋がっていけばですね、町会に対する理解度もずいぶん違ってくると思いますね。だから、問題は地域で何もしてなかったら、「何してんねん。」ということになりますけど、何か地域でこう、いろんな行事があるということは、非常に大きい。私どもの地域でしたら運動会やるんですよ。子どもも大人も我々みたいな高齢者も含めて。そのためにお金、町会費から出しますよね。それから盆踊りありますね。それでもやっぱり参加していただきます。だから、やっぱり地域で魅力あるもの、参加しやすい行事がなければ、なかなか接点ができないと思いますね。やっぱり中心部はどうしても、タワーマンションとかあんな関係があるんで、やむを得ないかなっていう気がしますけれども、周辺部はまだ昔の街並みが残っているとありますから、それなりの加入率がありますけれども、港区はだんだんタワーマンションとか、マンションができてきましたら、加入率が当然下がってくるのはやむを得ないかなと思いますけれども、逆に、特に港区なんかは津波なんかで、非常に被害を受けやすい地域ですから、避難一時場所とかですね。地域とタワーマンションの人が、そういう形で接点ができれば、ずいぶん地域の関わりが変わってくるような気がします。ちょっと参考までにお話させていただきました。

○木下委員

私は逆に資料で事前に送っていただいて、全部読ませていただいて、今日も事務局からもいろいろお話を聞いて、「あ、そうなんや。」と。でも行事っていうのは、地域活動協議会ですべてのことをある程度して、それが地域の行事をするという感じになってるんです。

あと、町会加入率が低くても、本当にどうしようかなと思ってモゾモゾしてたんですけど、例えば、これ地域のニュース（パンフレット）なんですけど、若いお母さんらをキャッチしようと昔はちょっとう、バチッと固い写真を撮ってとか、区長さんが来ていっしょにご飯食べてるとか、そういう写真がトップに来てたんですけども、

今こうちょっとヤング層をねらって、去年からつくり出しました。クチコミで配ったりしていたときに、「あなたの住んでいるとこの町会はここよ。」と。住んでる町会がどこかわかるようになってるわけですよ。ちょっとわかりやすくしたいなあと思っ
て。本当はここ町会長の顔を入れようかと思ったんですけど、「やめてくれ。」と言
われて。

それとあとは、コロナだから、いろんな行事ができていないというのがあったりし
たんですけど、この「大淀東・町会Q&A」と書いて、ここの「あなたのお住まいは
何町会？」をつくって、町会Q&Aで「『大淀東地域』とよく聞きますが、どこです
か。」とか、その住所とか、町会ってどんなんやと。ほんで「日々こんなことしてま
んねん」と、一番下に定期開催の事業を入れてます。こういう感じで入れました。ほ
んで後ろに、こういうイベントを「コロナのなかでも工夫しながらやっています。」っ
ていうのを入れています。地活協、社会福祉協議会それぞれの事業に、あと、各町会
は町会でそれぞれの町会のお掃除をしたりとか、総会をして、どっかバスで行ったりと
か。あと、各町会は、一人暮らしされている高齢者の困りごとをどうキャッチしたら
ええねんという福祉関係に関しては、やっぱり町会の女性部長さんであったりとか、
町会長さんだったりとか、そういう方にキャッチしていただいて、掲げていただくっ
ていう感じにしています。それから、高齢者の食事サービス。今ちょっとできてません
けども、手づくりなんで、各町会、6町会あるんですけど、そのなかで振り分けて、
だいたい、キャパ8人までという感じでしてるけども、(スタッフ)人数の低いと
こ、高いところありますが、連携しながら動いています。せやから町会に入ってへん人
でも、例えば、しんどそうな人であったりとか、一人暮らしの人であっても、空いてた
ら高齢者の食事サービスに来てもいいと。意外といい加減っておかしいですけど、町
会に入ってへんかったらできへんでっていうことは、地域の行事ではないようにしよ
うと。その延長上で、「手伝ってもいい」と言ってくれるそんな人を増やしていき
たいなあいうのが理念です。ただ、さっき松井さんが言い合ったように保険とかケガと
かの心配あるかもわからへんけども、参加しはる人は食事サービス以外でケガしたら
自分の責任っていう感じで、その代わり費用は取ってないということでやらせていた
だいています。本当にタワーマンションがポツポツじゃなく、ニョキニョキ出るとこ
なんです。上向いたら高いマンションばかりが増えてきて、町会長さんも小さい町会
であったりとか、そんなマンションができたら、自分らよりももっと人数が増えるか
ら、そこで町会つくってほしいなあって言うお話をさせていただいても、「そんなめ
んどくさいことできるかい」って言われて。「わからへん」っていうのも、住んでは
らへんかったら、わからへんこともあるけど、でもいろんな行事に参加しはったら、
わかってもらえる。一番タイムリーな話としたら、市内だと病院も多いし、便利やし
と郊外から引っ越して来はった高齢者のご夫婦の例。結局そのタワーマンションいて

たってお友だち誰もいてへん。そこに、区の保健福祉センターから「体操教室があるよ、認知症予防の教室があるよ。」と声かけたら来はったりとか、そっから、まあ、すごく、もう7年、8年も続いています。

ご寄付でいうたら、マンション全体の自治会みたいなのがありますよね。「町会はちょっと」と言いはっても、そうしたら「バザーをするから」とマンションの住人の方から寄付をいただいたりとか。何かの形で地域の行事とかいうのに参加して初めてわかっていただくこともあると思います。ユルユルで恥ずかしいんですけど、我々のところに情報は全部来るようにはしています。そういう意味ではのんびりしてるけど、楽しくしんどいながらもやっています。ただ、この懸念事項にあるような次の世代を、私らがサービスを受ける側になったときにどうすんねんっていうときに備えての準備はそろそろ始めなあかんし、事務局の方がおっしゃってたように、「無料のボランティアではやっていかれへん」ということも、何となくわかりますから、それは対策として、次の手段として、考えていきたいなと思っています。

地域の事業は地活協が主となって進めています。そのなかで、「この事業は連合に任せる」と。連合って区のいろんな、区民カーニバルとかそんなときに連合の事業で一体となってするという感じになってますかね。誤字・脱字があるかわかりませんが、もしよかったら見ていただいたらいいかなと思っていますけど、すみません。

○桜井会長

ありがとうございます。

今、上村委員、松井委員、木下委員からご意見いただきまして、最初に上村委員からは、地域の魅力を伝えにいくことだとか、地域のために何かしたいっていう思いを新しい方たちに醸成できるのかというようなことをお話いただいたかと思います。

確かに地域のためにですね、地域から「何がしてもらえるの？」みたいな受け身の人っていうのを、なかなか捕まえるのは難しいのかもしれないなあというのはありますけども、あわせてですね、地域から何かをしてもらえれば、そのあとの松井委員や木下委員の話にもありましたけども、地域から何かをしてもらえた経験っていうのが、また、恩返しではないですけども、今度は自分がする側に回ろうかみたいな循環もあって、特に子どもさんなんかは、そういうふうに地域でしてもらえた思い出っていうのが、おそらく「今度は担い手になろう。」というような転換につながるのがあるのかなあというふうに思いました。

「地域の行事をどう魅力的にしていくのか。」というようなことを松井委員からもお話があったかと思いますが、新しい方への伝え方として、パンフレットを今、木下委員からご紹介いただいたようにですね、何かこう、ウェルカムですよ。 「ようこそ。」みたいな感じをどう新しく来た人たちにこう町会が示せるかみたいなものもある

のかなあとというふうにお聞きしてて思いました。

子どもがいる世代とかはわかりやすいんですけども、単身世帯や一時的な転入者が増えてるなかで、外国人も含めた多様な方たちがどう町会に参加してもらえるのかっていうところも課題なのかなあと、今、お三方のお話を伺って思いました。

特に、これで私がまとめて終わるって感じじゃないので、何か今のお話を受けてでも、新しい話題でもかまいませんけど、委員の方々いかがでしょうか。

○藤本委員

はい。藤本です。

まず、最初に思いましたのは、「町内会めんどくさい派」を「町内会加入するだけ派」に引き上げるかっていうのは、目的としてさびしい。「めんどくさい派」を「町内会活動に参加する派」に入れるんだという目的にしたい。ボランティア活動という言葉について、ボランティアという言葉に無償で困ってる人を助けるっていうイメージがすごく強くある。自治会・町内会を活性化させようとする活動は、無償というだけではないだろう。無償性を優先するような言葉はあまり使わない方がいいのではないかと思います。

漠然と「市民活動、あるいは自治会の活動に興味がありますか。」とか聞かれると、「ない」って答えるんですが、「何のために、何をしているか」といった詳しい情報があれば、「やりたい」と思う人がいっぱいいると思います。

例えば、この大淀東のパンフレットを、区役所に転入の手続きのときに渡し、「よかったですね、あなたの行くところ、こんなすてきこと、やっているとですよ」って言ってあげたらよいのではないかと思います、自治会の活動は、千差万別です。「何でこんなやらかなあかんの？」と不本意に思う活動をしている場合や、自治会と他の組織で同じような活動をしていたりします。活動の棚卸しが意外に必要で、それが意外に進んでない。企業でバリバリやってた人がリタイアしてお住まいだったり、しますが、あまり、進化していません。みんなが「これは自治会で、地域でやらかなあかな。」と、納得した活動にしぼっていくことや、「ちょっとこれ、大変やわあ」というのは外注するようなことも考えていいのではないかと思います。自治会費の使い道も「意思決定の方法」が効率的でなく、柔軟にすることが難しいのではないのでしょうか。合意形成や意思決定の仕組みについて、市役所が「こういうふうに分めたら全然問題ない」というような支援をすることも必要ではないでしょうか。

○桜井会長

ありがとうございます。藤本委員。

ボランティアの話が最初にありまして。確かにそうですね、ボランティアというの

は、「自発性」ってということなので、無償の活動は「サービス」ですね、英語で言ったら。日本語で言ったら、「奉仕活動」ですけど。サービス残業というのは無料の残業という意味みたいなところで、だからボランティアという言い方がいいのか、どうなのかっていうようなご提示だったかと思います。

それから、ボランティアもですけど、加入もやっぱり誘うっていうことは大事で、かなり勧誘をするっていうことを積極的にやってもいいんじゃないかっていうような提起でもあったかなというふうに思いました。

それから、後半の話でですね。町会の活動のこう、少し負担軽減も含めて外注なんかも視野に入れながら、取捨選択していくというところもあったかなと思います。私も最初にお話したウェルカムな姿勢を見せたらどうかっていうところで言えば、まずは勧誘のところですね、パンフレットといっしょに何か景品をね、付けたらどうかと思ったんですよね。例えば、お茶の一本でもいいので、区役所とかですね、そのパンフレットを渡していただくときに、ウェルカムドリンクみたいな感じで、「何かあったらここへ連絡してください。」、あるいは、「町会にこう入ってください。」みたいなお知らせをするっていうのも何かちょっといいのかなというふうに聞いてて思いました。

はい。ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

○巽委員

すみません。

○桜井会長

はい。

○巽委員

大阪市社協の巽です。いつもお世話になっております。

委員の皆さんからお話を聞いて「本当にそうやな。」と思ひまして、上村委員や松井委員のお話は現場、地域の本当に生の声、リアルな声やなと思ひました。やはり地域においては、自治会長さんと、地活協の会長さんと、社協の会長さん、三者おられるところもあれば、お1人で担ってらっしゃる方もおられるというところと様々だと思ひますし、そうなってきましたと、今、木下さんからもありました、地活協の活動と町会の活動についてもう少し整理がいるのかなと思ひます。そして、町会のメリットをどう見せていくかっていう話では活動の整理が必要と感じました。たぶん町会は、名簿があつてある程度把握した方を対象として活動しているものですが、地活協の活動は、木下さんがおっしゃったように誰もが参画できる活動であつたり、少し福祉的

な面で言いますと、生活に困りごとを抱えている方のサポートをできるような関係づくりも含まれてくると思いますので、そういったところと、実際この町会加入のメリットをどう見せていくのかというところを整理していくことが必要と思いました。あと、先ほど藤本先生からもありました「めんどくさい派」を「加入するだけ」にするだけではちょっともったいないなと思いました。

ハロウィンが近いんですけども、ちょうど関わった地域で、ハロウィンも含めていろんな地域のイベントを本当に若手の方が中心となって活動されている地域がありました。連合町会長さんに聞くと、「あの人たち町会に入っていないねん」というふうなことをおっしゃるんですね。ただ、みんなが楽しめることを企画するというふうなところでいくとやっぱりそれはもう、町会加入、未加入は特に関係ないのかなと思いました。こういったところを連長さんも意識をされていて、自分たちが楽しいことをしないと、なかなか活動にもつながらないんじゃないかということもありますので、そういったところがやはりメリットであり、めんどくさいと思っていた方も、少し活動に参加をできるような仕掛けも必要と感じました。

あと、町会に入っていると名簿があり、この名簿で、例えば災害のときであったり、何か起こったときの支援というところで、すごく大きな力になるのかなということも一方で思いますので、そういったあたりを整理できればいいのかなと思います。あと、本当に大淀東さんのこのパンフレットですね、こういったものがお手元にあって、町会のことを理解できたらいいなと感じました。以上です。すいません。

○桜井会長

ありがとうございました。

○三田村委員

パンフレットは、どういう形で、どういうお金で、どのように誰がつくっているのですか。

○木下委員

私らで。あと、プロのデザイナーで地域でお仕事されてる方をお願いしたり。原稿とかはいっしょにしてます、相談もって。これを入れようというようなところは、私らだけで決めさしていただいたりしてます。

○三田村委員

けっこう、定期的に出されてるのですか。

○木下委員

そうですね。

○三田村委員

けっこうな作業量ですね。

○木下委員

ちょっとでもわかってもらいたいなという気持ちだけです。

○三田村委員

こういうことができる時間のある人たちがサポートしていただけるといいんだけど。若手にバトンタッチしようとしたときに、「ここまでできるか」という課題はあると思うが。

○木下委員

その地域のこだわりをどうとらえるかよね。捨てたもんやないのん違うかなと思いつつ、それから全部がこのコアの4、5人で書いてます。1人が福祉コーディネーターといって午前中は業務中ですよ。あとは、社協の会長、地活協の会長であったりとか、私やとか各事業担当してますので、そこである程度しぼって、「載せてほしいんやったら持ってきて」という感じで言いながら、一歩ぐらい、半歩ぐらいの前進もって、ちょっとずつ進んでいきたいなあと考えてます。専門で作業してくれる人がおったら違うかなと。

それとあと、たぶん、会館でだいたい事業をしますんで、そこは子どもらが、先生に英語であったりとか、そろばんであったりとか、空手であったりとか、クラシックバレエであったりとか、子どもの勉強みたいなのがあるので、子どもが40名であったりとか、ぎょうさん交代で、毎日、来ます。私らよく怒ったりしてますけども、そこで「知ってるおばちゃん」が怒ってたとなります。私らが小っちゃいときは、学校の制服を脱いで、家からお稽古道具を持ってくるのに、今、学校を終わって制服でそのまま来るんですよ。「なんでやろうな？」と思ったら、お母さんに「帰ってきたって家に誰もおらへんから行っといで」と言われて来てる。

その子どもらが大きくなったときに、ここの地域で怒られたおばちゃんとか、楽しいことがあったりとか、イベントごとに参加したりとか。高齢者の方は足がしんどくなって、阪急とか阪神とか、そこにあるんやけど、行くのがしんどい。買いものに行かへんかったら、もうバザーで買い物してもらおうとか。小っちゃい子から高齢者まで何とかその地域で生活できるよう、ひっかかるものをつくっていく方法でしかないな

あとは思ってるんです。

お金のことは、地活協の広報予算でやらしてもらってます。あと2割5分は自分らで何とかせなあかんから、そこに載ってるような古紙回収であったりとか、そういうので。あとは地域の皆さんからカンパいただいたりとか、そんな感じですかね。もうタイトロップみたいなのがあるんですけど、やっぱりちょっと届けてわかってほしいなという気持ちでやっています。

○三田村委員

ある意味、うまくいってる地区だと、すごく感心してるんですよ。こういう良い事例は、やり方を含めて、この地域にしっかりと伝えていってほしいと思います。それからやはり無関心な方に気付いてもらうっていうところは、大変なことで、地域がそういう魅力的な活動をされて、地域の活動が見えてくると、そこに参加したいとか、先ほど藤本さんも言われたように、まずは参加して、そこから次に自治会なりに入っていくという方向に行けばよいかなと思います。いきなり何もわからないまま自治会に入れと言われても無理な話で、やはり何か、自分自身のメリットになる、そういう活動に参加するなかで、「やはりこれは自治会にちゃんと入らないとあかん」という意識が生まれる環境づくりというのがすごく大事なかなと思います。そうすると「町会加入だけする派」ではなくて、「活動に参加する派」に、いきなり「斜め右下」の方へ向かって取組が進んでいくようなもっていき方っていうのはやはり大事だと思います。だからあまり「加入だけする派」ではダメで、持続性もない。やはり魅力的なのは、自分が自発的な動機で、まずは自分がこれをやりたいということや、これに参加したいところから始まって、そのなかで中心的に自分がもう少し良い形でやっていきたいと思われると、そこへ向けて役割を分担すると、そういう方向に向かっていくのがいいかもしれません。

○桜井会長

はい、ありがとうございます。

今のお話で、その前の巽委員のお話からも、自分たちが楽しめることをやっていけば良いのではないかっていうこと、そこから「めんどくさい派」をですね、加入だけではなくて参加にもっていきにはというところの話に広がったかなというふうに思いました。防災なんかの話を考えますと、必要性みたいなことも補完してもらえた方が良いのかなという面もありつつですね、より多くの人に今、町会がやっていること、地活協とでやってることも発信していくにはどうしたら良いかということにも問題提起が広がったのかなあと思いました。

僕は、三田村委員がおっしゃっていただいたような、やることが見えることが

大事、見える化というような話が一つあるでしょうし、それから、その作業の縮小と
いうか簡素化もですね、もう少し考慮に入れると、ネットですかね、SNS等の活用
も少し考え、何かこう議論してもいいのではないかなというふうに、今のお話を聞いて
みて思いました。

○三田村委員

あのう、いいですか。防災的な側面でね、避難訓練とか、災害のための対応をこな
す行事は、非日常に対応するための一つの行動をしっかりと日頃から認識するために
大事ですが、いざというときには、日常のつながりが大事なんです。日ごろから、防
災、防災して事を進めていかないというのではなくて、やはり日頃のお付き合いがあ
れば、いざというときには、顔が見えていて、あそこのおばちゃん、あのおばあちゃ
んいないとか、あの子どもはあそこの親やと、周りから認識されて、非日常になる防
災のときには役立つわけです。そういう意味でやはり、自治会の活動のなかでいろん
なイベントをつくって、みんながつながりを持つということを担保していかないとい
けないのかなと。そのためには、魅力あるイベントにどんどん参加してもらえる環境
づくりというのがすごく大事だと思いました。

○梅田委員

はい。話してもいいですか。

○桜井会長

お願いします。

○梅田委員

よろしく申し上げます。大阪ボランティア協会、梅田です。

若者の感覚とか、そこは、塩山さんにぜひ伺いたいなあと思います。まず一つ
は、外的要因と内的要因が自治会・町内会の加入についてはあるなと思っていて、外
的要因でいうと、自己責任論がずっと言われて、それがいまだ続いている。貧困にな
ったのは、「その人が働かないからだ」とか、「日頃の節制が悪いから」とか、片親に
なってしまったのは、「その人の性格が悪い」とか、何かその人が悪いみたいな話にな
ってきた。それを、地域で支援していこうかって動きっていうのはなかなか出てこ
ない。核家族もそうですけど、どんどん個別化して行って、その人の問題というもの
をその人が解決しなければならないっていうような状態にもっていかれた。その割に
地域のなかで暮らす人たちは多様化している。困りごととも増えている。それを支援し
ようというときの仕組みがないから、ボランティア活動が生まれてくる。「困ってる

人同士で何とかしましょう」といった話が出てくる。だけど、そのときに自治会や町内会は、一体どういった役割を果たすのかっていうのが実ははっきりしていない。みなさんのお話のなかにもありましたけど、「地域のために何ができるのか」をはっきりさせないといけない。地域のなかで何が今困ってて、住まれてる方の困りごととは一体何なんだろうかと。そのために、自治会や町内会っていうのは何をやる、すべきだろうかと話にならないと、役割としてはっきりしない。「班長がいない」という話になって「募金活動ばかりしてるんや」という話がありましたけど、赤い羽根共同募金もお金が集まらなくなりだして久しい。「地域のために使うお金ですよ」ということで最近では地域課題に寄り添った形の募金とアピールされているんですが、それでも地域の人には「何のためにお金」がなかなか伝わらない。だから、それは結局その「地域のために何ができるか」というあたりの、その地域の「課題とは何でしょうか」というあたりなんか問われてるのかと思っています。

これ、たぶん地域ごとに違うのではと思います。様々だと思います。

もう一つ、自治会によっては、マニュアルを持ってたりします。会計担当とか担当者が変わっても、「いったいこのお金は何なんだろう」と困ることのないよう引き継げるマニュアルをつくってる。行政としてどんなことをやっていくかと言うときには、自治会というものを特に運営、コンセンサス、イニシアチブを取っていくのはいったいどこなのかというあたりなんかをはっきりさせておくということが非常に重要かと思っています。そのための自治会マニュアルはつくられた方がいいのかと思っています。「地域ごとに」だと思います。

もう一つ、お話のあった行事系です。僕はエンターテイメントだと行事は思っています。これはどんどんやっていいと思っているのですが、他にもたくさん行事というものは様々な団体の主催で行われていて、それに対抗できるのかというのが、まずある。そこをコンサートとかと比べられるわけです。地元で歌を歌ってる人よりも、全国で有名な歌手の方にみんな行きたいというのがあるわけです。あと、地域のお祭りとかイベントというものを最近よく外注している。他に委託するような形で出してしまうっていうのは、残念です。企業や、全然その地域のことを知らないところがもっていくっていうのは非常に残念と思っています。そういったものこそ地域の人たちが取り組んでいくには良いのかなあと思っているんですが、その難しさがあるなあというのを一方では思っています。

なので、自治会・町内会の加入を今後、促進していこうというときは、まずはその地域のなかの課題は何か、はっきりさせておくっていうことと、そのうえで誘いしていく機会をどんどん増やしていく。役所で、渡してもらおう。僕もマンションに住んでいるので、ほぼ地域の情報は入ってこない。掲示板で見るぐらい。なので、機会はどんどんつくっていけば良いかなと思ったのと、強くお勧めしたいのは、マニュアル

をつくりましょうということ。いい加減にそうしないと、運営がバラバラになって、地域格差がどんどん開いて行って、しんどい状況にある人たちがさらにしんどい状況になっていきます。

○桜井会長

ありがとうございました。そうですね、町会がどうしても属人化しがちなので、担い手の話でいうと、できるだけこう、例年の行事については、そういうマニュアルというか、引継ぎができるものが具体的にあると良いっていうのは、そのとおりでしょうね。で、今の梅田委員のお話で言うと、地域の課題をですね、どう、こう考えて、それにどう対応するかっていうのを設定していくっていうのは、NPOはやはり非常に得意なところだと思いますので、そういう意味では、NPOと地域組織がどう協働してやって行って、やっていったらいいんじゃないかというところもあるのかなというふうにお聞きをしていたところです。いかがでしょうか。

○石地委員

すいません。いいでしょうか。

○桜井会長

はい。お願いいたします。

○石地委員

すいません。皆さんのご意見を聞いてて、もう本当におっしゃるとおりだなと思いながら、共感してお話を聞いてたんですけど。今回の自治会の加入促進につながるかどうかかわかんないんですが、特にマンションでやっぱり、どの区でも、中規模層で大きく建ってる所と、まだまだ戸建てのところとけっこう混在してるんじゃないかなと思うんですよね。特にマンションなんかで言うと、私もですけど単身世帯なのか、ファミリー層が住んでるのかでは、おそらくその地域との接点って全然違うと思うんですよ。単身層が多いところだと、おそらく地域の情報って、ほとんど伝わってないと思いますし、回覧板もない可能性もあったりしますよね。なので、情報をその届けたい相手に、対してやっぱり伝え方って変えないといけなくて、先ほど事例があったチラシとかパンフレット、すごくすてきで、それが手に取れる層はすごくその情報を見て、まさに地域と接点つくろうかなと思うかもしれないんですけど。例えば、そのチラシとかパンフレットがどこにあるかもわからない層からすると、チラシではなくて、インターネットを使ったような、IT関係もSNSとか、ホームページの方が実は情報がよく伝わりやすいっていうこともあるのかなというふうにはちょっ

とっていました。

特に、昼間は地域にいないけれども、自分の住んでる地域で何かやってみたいなっという人たちにとったら、SNSの方が実は情報が得やすいこともあるし、やっぱりやってる人の顔が見えると、例えばそこにじゃあ、一歩足を運んでみようかなっていう気にもなるかもしれないので、伝える方・側からすると、やってる人たちの顔が見えることと、伝え方を一つにしないっていうか、いろんな手法で、もうすでに、どの地域もいろんなスタイルで情報を届けることは考えて工夫されてると思うんですけど、「受取り側の立場に立って考えたとき」に、伝え方をちょっと工夫する必要性はあるんじゃないかなあというふうには思いました。

で、おそらく町会加入されてるなかでも、実際に地域活動されてる方もいれば、そうじゃない方もいらっしゃると思うんで。本当は「いっしょに活動してくれる方を増やしたい」っていうところじゃないかなと思って、ずっと話を聞いてました。活動してくれる人をどうやっていかに増やすかっていう話でいうと、いつ、どこで、どんなふうに関わってほしいのかっていうことを、やっぱり声かける側もイメージとか、具体的な場面を想定して声かけすると、例えば、隙間の時間でお昼だけは空いてるから、「じゃあ、この配りもの、いっしょにやりましょう」ってお母さん方が出てくるかもしれないですし、「この休日のこの隙間だけだったらボランティアできます」とかっていう人が見つかるかもしれないので、そのあたりはやっぱり具体的な関わってほしい層のイメージをやっぱり、声かける側が具体的に想定をして、こういうところに関わってほしいという具体的な計画なんかを私は立てる必要性はあるんじゃないかなあというふうには思います。

先ほどマニュアル化っておっしゃってたお話もありましたけど、今いる皆さんとか今、関わってるメンバーがずっとその活動に関わるわけじゃないってのは、たぶん皆さんご承知のとおりだと思うので、次につなげられるようにマニュアルっていうのが、紙ベースでも、データベースでも何でもいいんだと思うんですけど、ボタンタッチしても必要な活動が続けられるような体制っていうのは、これからつくっていくべきじゃないかなっていうふうに思いました。以上です。

○桜井会長

ありがとうございました。今、インターネットの活用も含めてですね、活動してくれる層をどう増やしていくかっていうところでやはり勧誘をですね、適切に行っているってたらいいんじゃないかというお話を石地委員からいただいたのかなと思いました。いかがでしょうか。今までのところで、改めてのお話でもかまわないですが。

もしよろしければ、塩山委員がまだ発言ないので、もしよろしければ。

○塩山委員

すいません。発言します。自治会・町内会とかを考えてたんですけど、今、僕、37歳で、30年前ぐらいは「つかしん」って、尼崎の方のエリアなんですけど、自分の住んでるエリアの住民の多くの方が入っていたイメージがあつて。高齢者の方もいれば、家族・ファミリー層も多かったんですが、マンションもあまりなかったこともあつて、エリア全体が入ってたのかなあとってはいるんです。

その「つかしん」の横に、自治会の大野会館という大きな会館があつて、そこに入ると会館で高齢者の方だったらカラオケ教室ができたとか、発表ができたとか、けっこうメリットがありまくりというか。子どもであれば夏休みの期間、菊水丸さん来ての盆踊り大会があるんで、練習に毎日行って。夏に関しては、朝ラジオ体操で大野公園に行ったら、その自治会・町内会に入っていると、何かラジオ体操のスタンプカードをもらえて、それがたまと、マクドナルドのポテトのSがもらえとか、マックシェイクが1杯もらえとか、子どもにとっても自治会・町内会とか入るメリットがものすごくあったんですよ。自治会とか、市民活動とか、ボランティア活動どうこうじゃなくて、皆さん、地域にとっては入らない手はないぐらい、何かすごいメリットがあつた。だから、たぶん、すごい加入率も高かったのかなあとというふうに思うんですよ。一方で、僕、今、大阪市内に住んでますけど、マンションなので入ってなくて。で、仕事で今、四条畷とか、清滝団地って府営住宅の方で仕事してるんですけど、そのエリアの周辺を聞いたら、多くの方が入っていると聞きました。なぜかという、それは四条畷市が持つてる、大きな高齢者福祉センターがあつて、カラオケ歌い放題、銭湯があつてとか、毎日そこに行って健康になってくる。高齢者の方にとってはすごくメリットがあるんで、その、いまだに何かこう入ってるエリア。昔、僕たちのときはファミリーレストラン行くのはけっこう幸せな感じってありましたが、それが今はファミリーレストランがどんどんなくなってきて淘汰されていって、どんどん専門店が増えていっている。そういうふうに行く自治会自体がずっとう、昔のファミリーレストランみたいな形で、過去の幻想みたいな形になっているので、それ自体が、たぶん店のあり方自体が意思決定を含めて、藤本さんがおっしゃった組織としてのあり方も含めてを見直していかないと。本当はその、ニーズが多様化してるので、例えば、僕であれば、そのマンションの自治会に入って、PTAとか、けっこう、これだけで行事が多いんで、町内会・自治会は入らなくても、たくさんやらなあかんことが多い。企業の部長さんとかに聞くと、社員さん孤独なので、単身で大阪来てつながりがないので、だからそのような取組みができないか商工会議所とかに提案してもなかなかしてくれへんとかいうことがあるので、逆にこう、単身の方に関しては大阪に引っ越して来たら、自治会・町内会に入ったら、街コンに参加できて、将来の出会いもできるとか、街中バルとか。そういう町の資源を生かした出会いとか、単

身の若者にとってもメリットがありまくるといふ。たぶん、こう、単純に「この自治会・町内会ボランティア活動に参加しませんか。」っていう問いかけではなくて、たぶんメリットがあるから、結果的に参加しているっていうだけでいいと思うんですよね。そういうことかというと、単純に単身の方には、メリットが皆無なんで、たぶん参加者したい人はおらんと思いますね。そういうことかというと、地活協とか中間支援組織自体のあり方も、たぶん、本当はその単身の方に向けた委員会とかをつくった方がいいですよ。中間支援の組織自体の意思決定というか、それを実行していく部分のあり方自体を行政として1個つくった方が、U25とか、U35ぐらいの町内会という形のものをつくらないと。先ほど石地委員の方からもありましたけど、すごくこれ（パンフレット）、すばらしいものがあると思うんですけど、たぶん、単身の方にかないかもしれないということもあるでしょうし。単身の若者には、「単身の若者向けのツール」をつくるようなチームをつくった方が、それを大阪市としてバックアップしていくっていうことに、本気でその組織的なというか、中間支援のあり方自体をちょっと細分化していくとか、専門店を増やしていくみたいないうふうにしていかないと何か厳しいのかなあというふうにお話を聞いて思っていました。なので、何かそういう意味で自治会・町内会っていうのは、メリットがありまくる組織なのかなと。それがターゲットごとに違うと思いますけど。

○桜井会長

ありがとうございました。かなり何ていうのかな、世代的な問題、それから地域をどうらせるかってのがたぶんあるのかなと、今、塩山委員のお話を聞きながら思っていて、まあ、私ぐらいの割といい歳になってくると、別に地域がワクワクする場でなくてもいいんですよ。むしろ、安心・安全に暮らせたならそれでいいぐらいの、地域への期待値がかなり低いっていうか、最低のところでちゃんとしてれば、ご近所さんとトラブルがなくてですね。防災とか、安全性もあってみたいなところで、地域をこう、じゃあどう保っていかうぐらいの思いになってくるところもあるんですけど、若い人たちのなかで考えると、その、でも、今、単身者の孤独の話もありましたし、そういう意味では、安心・安全な地域というキーワードでつながれる部分もありつつ、いかにワクワクできる場になるかというようなこともあるのかなと思って聞いてました。かなり、こう、地域が多様化してきているっていうことはこの会議で以前からも出てる話でもありますし、いかにこの多様な人を取り込んでいくのか、あるいは、もう少し限定的に、地域ができることは何かで考えて、あまり、こう、誰でもかんでも参加させないといけないっていうふうには思わなくてもいいのか、だからそのへんがけっこう、議論の分かれ目でもあるのかなという。11時45分ぐらいに時間を区切りたいと思うので、もうお一方、お二方ぐらい、どうでしょうか。だいぶ盛り上がってきてるんで

すけど、お疲れのところもあるかなと思ひながら。

○三田村委員

あの、いいですか。防災の観点では、地区防災計画を立てないといけないという状況です。そうすると、地区、いわゆる自治会単位とか、連合町会単位とか、防災計画をつくるというときに、防災カルテみたいな「自分の地区はどういう状況だ。」という整理していくという段取りが必要なんですけれども、行政側にちょっとお願いしたいのは、やっぱりそういう地区ごとの類型化のような、この地区はこういう特徴があって、例えば集合住宅のなかでも、それは単身者が多いとか、あるいは高齢化して独居の老人の方々が集合住宅に多いという状況もあるし、子育て世代が多い集合住宅があったり、古い地区と集合住宅とが集まっているといったいろいろなタイプがあるので、類型化するような形で整理して、どういうタイプのところで、こういう活動がうまくいってますよ。例えば、木下さんのようなところだと大淀の地区で、こういう状況のなかで、こういう形でうまくいっているというような整理なりをやっていくと、活動の方向性が見えてくるのかと。行政側から提示してもらおうと、動き方が見えてくるのかなとも思うんですよ。たぶん、それぞれの地区ごとに、方法はいっしょじゃないと思うんです。大阪市側で、再整理のうへ提示してもらおうっていう。それが、自分とはこういう状況で、「他の地区、こんなふうなことやってるんやね」とか、「こういう状況なんやね」というのがわかると、今後どうしたらいいのかということも少し見えてくるかもしれません。一つのやり方として、それは行政側からのサポートとしてはそういう提示があると思います。

○桜井会長

はい。ありがとうございます。

今の三田村委員のお話で思い出したんですけど、京都のNPOでですね、これちょっとどちらかっていうと、地方部の方の話にはなるんですけど、「集落の教科書」という冊子をつくって、移住者の方に、その地域のことを理解してもらえようとお配りしてる地域があったりするんですよ。何かそういうのをイメージ、皆さんと共有できればと思ったんですけど、事務局にお送りしますんで、参考までに、後日、お届けいただければ。けっこう、地域の良いところも悪いところも入ってくる方にお知らせしようっていうものになってたりするんですよ。

いかがでしょうか。冒頭に申しましたけれども、特にまとめて整理をしたり、決めないといけないということはなかったもので、出た話をですね、改めて事務局の方で、議事録等でまとめていただき、今後の大阪市の施策だとか、次回の会議につなげられたらっていうところだとは思ひます。

あるいは、それぞれにご活動されてる皆様に委員としてご出席いただいておりますので、何かご参考になるようなところがあれば、何か悩みが深まっただけっていうところもあるかもしれませんけども、共有できたことですね、理解が深まって、ご活用できることがあれば、良かったかなというふうには思っています。というところで事務局にお返しして大丈夫でしょうか。

○事務局（松穂）

はい。ありがとうございます。せっかくお集まりですので、松井委員さんの方で、実際に町会費を集めないと、なかなか町会の活動自体が停滞したり、先細っていくというお話があったと思うのですが、実際に地域活動の方で、利益を上げられて、それを地域に還元するっていう取組を通じてその町会への理解を深めてもらうという取組をされてるっていうことを、前に個人的にお伺いしたことあると思うのですが、できたら、そのあたりをもう一回お伺いできればなと思うんですけども。

○松井委員

ちょうど三田村先生がね、防災の専門家でいらっしゃるんですが、たまたま私どもの南市岡という地域は、海拔マイナス 70 センチの地域にありまして、小学校も当然、その地域にあるもんですから、たまたま私が防災の役をいただいたときに、小学校の備蓄倉庫にどういうものがあるんか見させていただいたんですね、その当時、3,300 人の人口の割にはちょっと、失礼ですけども、「備蓄が少ないな」という気がしまして、これではちょっと皆さん安心して避難できないかなということで、私どもの方で「じゃあ、防災のための備蓄品の充実をしよう」ということで朝市を企画しまして。鶴見区の「緑」という地域で、すでに朝市やっておられましたんでそこを見学しまして。平成 27 年度からだったと思うんですけども、朝市を毎月 1 回、地域の会館の前の公園を公園事務所からお借りしまして、ずっと。コロナでちょっと開催を控えていたんですけど、来月 12 月にはまた復活します。一応、朝市を「防災備蓄を充実させるため」ということで開催をさせていただきます。データちょっと古いんで、申し訳ないですけども、平成 29 年ですね、7 月、8 月はちょっと暑いんで、外して 10 か月間で、総売上げが 150 万。それで、仕入れ差し引き 120 万で、約 30 万のお金が収益としてあがっている。そのお金をもって、簡易トイレであるとか、ブルーシートであるとか、それから役所からいただくのはアルファ化米が大半なんで、ちょっとアルファ化米だけではちょっと寂しいんで、五目飯とかですね、カレーピラフとかをそういうのを備蓄購入させていただいて、小学校の 3 階に入れさせていただくんですけども、1 年で約 30 万買いますんで、もうなかがパンパンになってきましたんで、今はもう、その朝市の収益は、地域活動の方に回させていただきますけど、ただ、防災備蓄の方は、

毎年、毎年、やっぱり賞味期限の関係ありますんで、少しずつこう入れ替えんといかんとということで、そちらの方を補充しながらですね、さしていただいています。これは、一つはそういう目的のために、朝市をしました結果ですね、我々が思いもよらなかった方が、お手伝いに参画をしていただくようになりました。例えば、若い方が朝市に来て「ちょっと、たこせん焼かせてもろうてかまへん？」とかですね、そういう形で声がけいただいていますね、パティシエの方が「松井さん、モーニングでケーキ出させてくれへん？」という形で、新たな、また、そういう自分の得意で、楽しみなんですよね。そういう方が来ていただいて、朝市に参加していただくようになりました。それから、だんだんそれやったらってことで「自分の妹が、クッキーを上手に焼くので、それも出させてくれへん？」とか、それから地域の方でお仕事で、大阪府下の農家の方をずっと回っておられる方がいらっちゃって、その農家にその話をしたら「ちょっとうちの大根持って行って売りいや」とか、「玉ねぎ売りいや」という形で、少しずつ朝市としての裾野が広がっていきまして、それで一方では、玉岡さんもお存じ、お好み焼きとかですね、焼きそばを売ってましたら、ある人が「もう日曜日やし、何かおかずもつくってえな」ということで、ほんじゃあ、ミンチカツを、料理を上手な方がいらっちゃって、メンチカツをつくりまして、それも1個100円で、かなりでかいんですよ。それも好評で、そういう形でだんだん、だんだん朝市というプラットフォームを中心にですね、いろんなものが派生的にずっとできた結果ですね、けっこう今まで、あんまり顔を見なかった方も来ていただけるようになりまして、それから実は朝市で、お好み焼きとか焼きそばも売りますんで、やっぱり朝からビールを提供します。ビールもですね、1缶は、僕飲めへんからわからへんけど、150円くらいですか？それを250円で売ります。ちょっとぼったくりですよんか。ほんまいうたら。そういうことをいう人もおるんですよ。たまたまそれを聞いてた女の方がね、「何いうてんの。冷やし賃も要るやろ」と言って、もうそれで終わりです。せやから収益の利益は、たいがいはビール代が多いですね。それ1カップ100円ですもんね、儲かりますから。その代わり、仕入れの方は厳選しています。徳島の麻植農協、それから和歌山の紀ノ川農協、それから、ちょっと地域の方が五島列島出身やから、奈留農協とか、いろんな品目とか、野菜とか新鮮ですのでね、けっこう、皆さん、だんだん、だんだん周知されて「良いものがあるな。」と来ていただけるようになりまして、まあ、4年間かけて定着してきて。コロナの関係で残念ながら休んでますけれど、また、近々と地域の方から12月からやりたいと、朝市と合わせて豚汁祭りをやりたいと。まあ、豚汁やったら、皆さん、鍋買いで来はるんですよ。これがほんとうによ売れますねん。女の方も「日曜日はゆっくりしたい」と言うて。そんなんで、だんだん、そういう地域でこんな活動してますいうのを本来の目的は防災備蓄のあれやったんですけど。それで、まあ、収益を生んで、地域の地活協の助成金の方の自己資金の方のずっと入れさせて

いただいています。地域の、地活協全体の収支バランスも非常に良くなってきました。それから、朝市にとって新たな担い手が来たり。今、申し上げたとおりミンチカツをつくる人、パティシエのケーキをつくる人、たこせんをつくるひと、それから、地域の方で小物なんかをつくるのが好きな人。持ってきて「これを売って」という感じでだいぶ広がりが進んで、南市岡の名物の行事として定着してきたかなというふうに思っています。先ほど塩山さんがおっしゃったメリットはそういう部分で自分が好きなものがあつたら、そこで、あの、パティシエの方なんかでも 30 前半の方ですしね、たこせんをやりはってる方は 20 歳代の方です。まあ、そんなんで地域のなかで何らかの接点があれば、皆さん来ていただけるんやなというのを実感しましたですね。いずれにしても朝市そのものは、定着してもう少し広げていければ、地域の、また、いろんな、その派生したなかで独立したものができていけばいいかなというふうには思っています。以上です。

○事務局（松穂）

ありがとうございます。最初に、説明させていただいたときに問題点として「地域にお世話になってる感覚はない」というようなお話をさせていただきましたが、地域活動で収益を住民に還元されていくということを通じて、地域の人に活動を知ってもらうということを実践されている。

○松井委員

朝市の場合は変わっていません。「この売上げのお金は、防災備蓄に行きまっせ」と書いてます。それを貼って。はい。だから、皆さん、それ「高い。安い」という人、おるんですよ。「辛抱しい」と自分たちのためになるんやからという形でね、ちょっと僕は言うんですけどね。多少ね、やっぱし、値段はですね、前日に全部、地域のスーパーを調べましてですね、だいたい値段を把握して、それに合わせてあんまり離れて、ちょっと高くせんといかんのですね。して、どないすると言いましたら、我々、値付けをものすごく大事にしています。例えば、僕はですね、利益がほしいから「このぐらいのつけて」と言います。ほんなら、女性らは「そんなん売れるかいな。こんなんやないと売れへん」と言ってぼろかすですよ。そういうやり方でワイワイしながら、値付けをしていってますんでね、けっこう値段的には買っただけの値段になります。それから三つ、これがやっぱし朝市のコツがあるんです。1つはそういう形で値付けを女性陣に任せる。それから売れ残ったらどないするんやろというのがありますよね。売れ残ったらね、当時、今は売れ残らないですけど、僕らの飲みに行った居酒屋さんに持って行くんですね。「これ、ちょっと、原価でええから買うてくれ」と言うて。それも若干余ったときは、我々が引き取るというような形にさしていただいています。だ

から、朝市の一番お世話される方はやっぱり女性陣ですね。女性陣の方に負担をかけない。楽しんで、その朝市に従事していただくというのが、基本でやってますんで、まあ、それやからうまく続いているんかなとは思いますが、すいません。

○事務局（松穂）

ありがとうございました。本当に自立型っていうんですかね、一つの理想形かなというふうに思ってお話をお伺いさせていただきました。皆様、今日は本当にありがとうございました。聞きたかったことをいっぱい、ヒントをいただくことができたというふうに思ってます。取組みの見える化であったりとか、ニーズに見合ったPRの大切さ、また、ターゲットを分けて、SNSなんかを活用していくという手法ですよ、そのお話。行政としてこの、今のお話の好事例を共有していくといったこと。負担感を解消するために、作業の簡素化にまでお話をつなげていくということですね、など、いろいろ参考となるお話を聞かせていただいたというふうに思ってます。本当にありがとうございます。今日いただいたご意見につきましては、今後の予定にもつながっていくんですけど、第2回目の部会を直近になるんですけども、12月ぐらいに開催させてもらいたいと思ってます。8月の部会から今日まで議論もあまりなかったもんですから、部会からいただいた宿題も本日は十分にお返しできなかったところもあったのですが、それに対する進捗状況でありましたり、今日いただいたご意見を踏まえての、さらに加入促進に向けた議論を深めていきたいというふうにも思っています。そのような流れの後、2月から3月にかけて第2回目の審議会を開催させていただいて、令和3年度の総括という形でもっていけたらなというふうに思っております。事務局から以上でございます。

○桜井会長

はい。じゃあ、以上で、もし委員の方からも何もなければ、これをもちまして、令和3年度第1回大阪市市民活動推進審議会を終了させていただきたいというふうに思います。よろしいでしょうか。ありがとうございました。お疲れさまでした。以上です。